

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

「花鳥図屏風」でバードウォッチング

仙台市博物館 学芸普及室 阿部さやか

第3回

植物や鳥を主題にした絵画を「花鳥図」といいます。今回は、第3代仙台湾主伊達綱宗（一六四〇～一七二一）筆の「花鳥図屏風」を見ながら、そこに描かれた鳥の種類を、実際の鳥の写真も交えながら紹介します。

右隻に描かれた鳥

さっそく右の屏風（右隻）から見てみましょう。向かって右から、松の枝にとまるキジバト（①）、岩に座る雌雄のオシドリ（②）が描かれています。

屏風の中央付近に見える尾の長い鳥（③）は想像上の鳥で、「綬帯鳥」と呼ばれています。中国では官位を授かるという意味の名前を持つ、縁起の良い鳥です。空を飛ぶ小鳥（④）は雄のジョウビタキでしょう。灰色の頭、黒色の顔、橙色のおなかなどの配色がよく似ています。

水辺にいる白と灰色の鳥（⑤）はハクセキレイで、仙台では市街地でも見られる身近な鳥です。

左隻に描かれた鳥

左の屏風（左隻）に描かれた、目に白い縁取りがある鳥（⑥）はメジロです。

梅の枝にとまるメジロの姿は、春先の公園などで実際に目にすることができます。

黒い顔と白い体が目を引く鳥（⑦）は、配色は異なりますが、右隻と同じく綬帯鳥と考えられます。

左端に描かれたスズメ（⑧）は、とくになじみのある鳥ではないでしょうか。

花鳥図には、実際の鳥の姿をよく表している作品が多くあります。鑑賞される際は、描かれた鳥の色や模様、形などを観察してみてください。知っている鳥を探してみるのも楽しいですよ。

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース」(二次元コード)からご覧いただけます。



③綬帯鳥



①キジバト



②オシドリ  
(左が雄、右が雌)



⑦綬帯鳥



(左隻)



(右隻)

伊達綱宗筆「花鳥図屏風」仙台市博物館蔵



⑧スズメ



⑥メジロ



⑤ハクセキレイ



④ジョウビタキ?  
(写真:雄のジョウビタキ)



〔光明本尊〕岩手・本誓寺蔵

親鸞聖人生誕850年

| 特別展 |

再開館記念企画第3弾

親鸞と東北の念仏

—ひろがる信仰の世界—

Shinran and the Nembutsu of the Tohoku region

2024. 9/10(火) - 11/4(日)

詳細は、  
博物館ホームページで  
ご案内しています



仙台市博物館  
SENDAI CITY MUSEUM

【開館時間】9:00~16:45(入館は16:15まで)  
【休館日】毎週月曜日(10/14、11/4は開館)  
〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074

▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索  
▶博物館X(旧ツイッター) @sendai\_shihaku